

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 96
 - 2 内蔵モデムについて 103

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

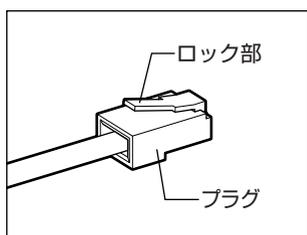
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

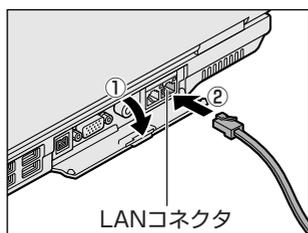
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



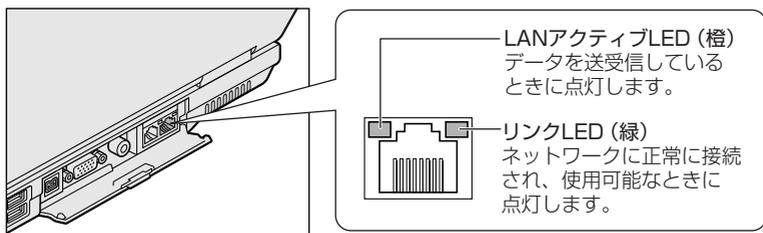
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

1 [コントロールパネル]を開き、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

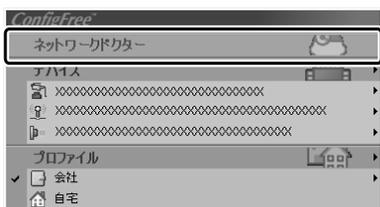
- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ConfigFree] をクリックする

通知領域にアイコン () が表示され、[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面と「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降「ConfigFree」の説明画面が必要ない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン（) をクリックする
メニューが表示されます。
[デバイス] の下に表示されている項目が使用できるデバイスです。
- 2 【ネットワークドクター】 をクリックする



【ConfigFree (ネットワークドクター)】 画面が表示されます。

【【ConfigFree (ネットワークドクター)】 画面】



画面は表示例です。

 は、問題が見つかったデバイスに表示されるマークです。

 をクリックすると、問題点と対応策が表示されます。

また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポイントをあわせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

● プロファイルの追加

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

● プロファイルの削除

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)

無線 LAN 機能が搭載されていない場合、この機能は使用できません。

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。

[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。

終了方法

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする

[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年6月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

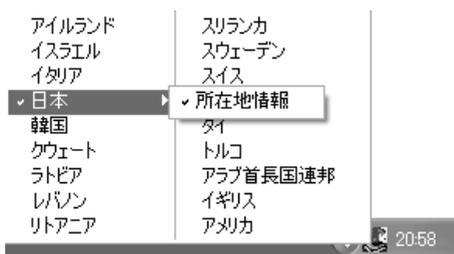
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークが付きます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

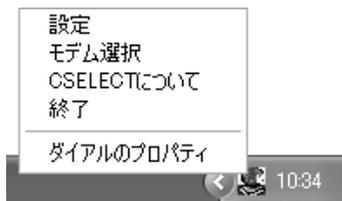
新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 108
 - 2 PC カードを接続する 110
 - 3 USB 対応機器を接続する 113
 - 4 テレビを接続する 115
 - 5 CRT ディスプレイを接続する 118
 - 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 119
 - 7 その他の機器を接続する 121
 - 8 メモリを増設する 124

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 ▶ 周辺機器の接続場所は「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

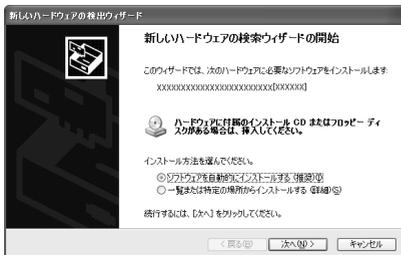
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ビュシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PC カードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- 無線 LAN カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PC カードを使う前に

本製品の PC カードスロットでは、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット：1（上側）	TYPE II
使用スロット：0（下側）	TYPE II / III

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

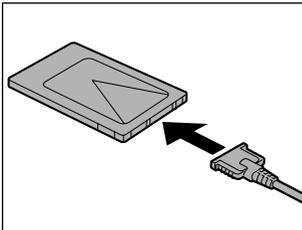
- ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

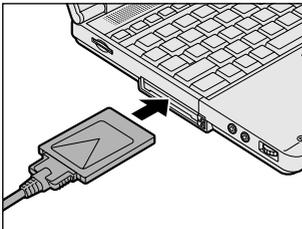
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

お願い

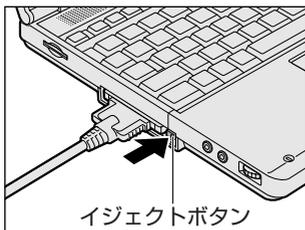
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

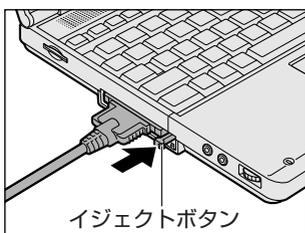
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



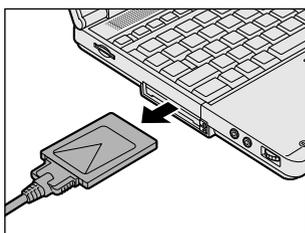
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

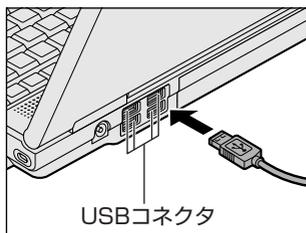
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4 テレビを接続する

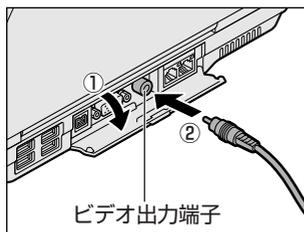
*テレビアウトモデルのみ

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 表示装置を切り替える

表示装置を切り替えるには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えしないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

方法 1 – 画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [画面解像度を変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD パソコン本体のディスプレイに表示
 - CRT CRT ディスプレイに表示
- [LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。
- TV テレビに表示
- [LCD] と [TV] を有効にすると、同時表示されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法2 - (Fn) + (F5)キーを使う

(Fn)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn)キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（内部液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、(Fn) + (F5)キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。これは最初に(Fn) + (F5)キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。



参照 ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

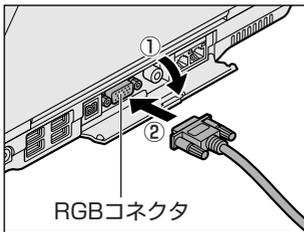
5 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 CRTディスプレイに表示する

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

東芝省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

参照▶ 表示装置を切り替える方法「本章 4-2 表示装置を切り替える」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

* 1394 モデルのみ

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

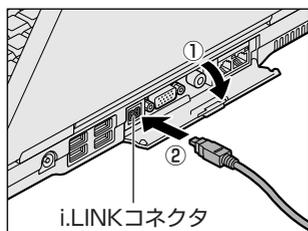
お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む②

コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き、ケーブルの一方のプラグを i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

7 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

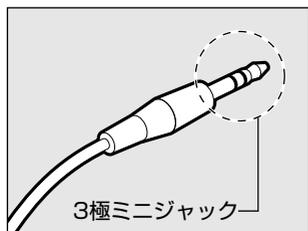
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

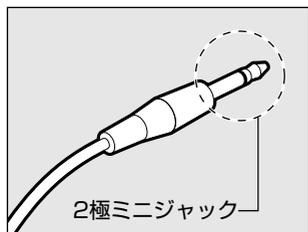
▶ 参照 → サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



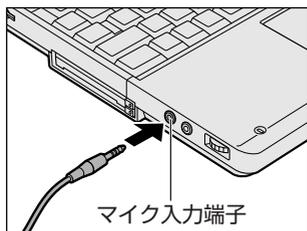
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

▶ 参照 → アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

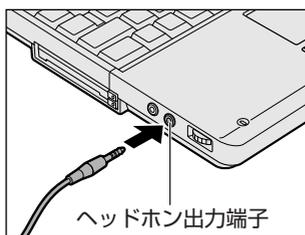
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「ボリュームコントロール」で調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ビーブ音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合は、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

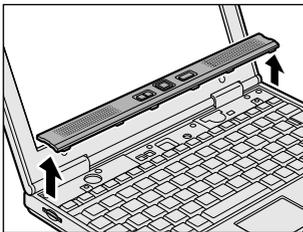
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

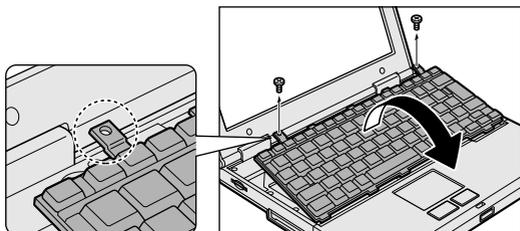
参照 ▶ バッテリーパックについて「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす



キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。

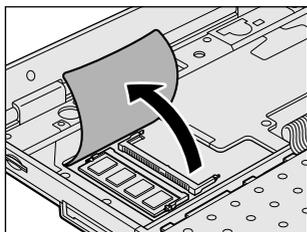
5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す



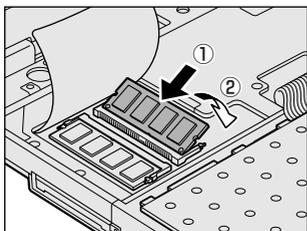
お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

お願い

インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後側と左右を押して取り付けます。

11 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる

7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

11 バッテリパックを取り付ける

 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

 「東芝 PC 診断ツール」について
『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 130
 - 2 省電力の設定をする 138
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 143

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

また、標準バッテリーとあわせてセカンドバッテリーパック（別売り）を使用すると、より長い時間バッテリー駆動で使うことができます。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS021)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

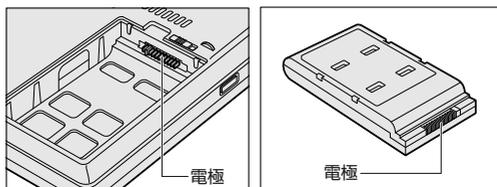
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

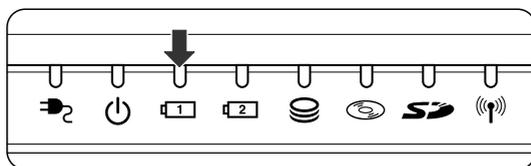


1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・ バッテリーが接続されていない・ AC アダプタが接続されていない・ バッテリー異常

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

 参照 → バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」

2 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

通知領域の [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



 参照 → 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 → 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

状態	電源 ON	電源 OFF
標準のバッテリーパック	約 3～12 時間	約 2.5 時間
セカンドバッテリーパック	約 2.5～9 時間	約 2.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリーパック	約 3.5 時間
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 7.5 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリーパック	約 60 日	約 5 日
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 120 日	約 10 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

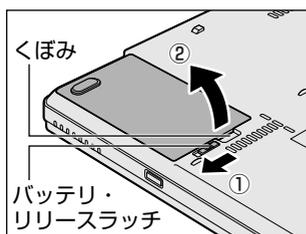
バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

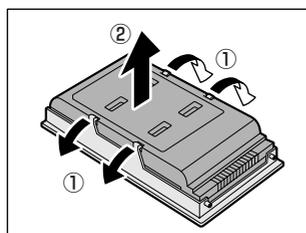
1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

- 4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリーカバーごとバッテリーパックを取りはずす②

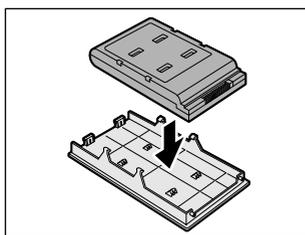


- 5 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

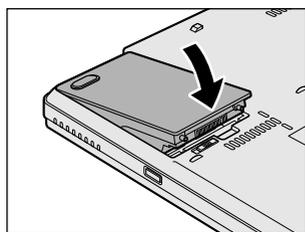


バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

- 6 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



- 7 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し、カチッという音がするまで静かに差し込む



2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

2 [東芝省電力] をクリックする

[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期設定状態では、[電源に接続] (ACアダプタを使用するとき) がこのモードに設定されます。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ*	消費電力を最優先にして省電力制御を行います。

*モデルによっては、このモードは表示されません。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

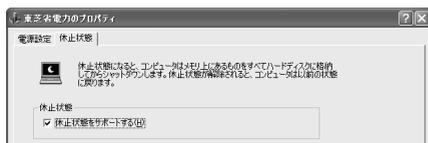
[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



参照 → 休止状態について「本項 4- 【動作】タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。
Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【何もしない】

何も動作しないように設定されます。

【入力を求める】

[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windows のパスワードを設定している場合には、復帰するときに Windows パスワードの入力が必要になります。

【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリー使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

【デバイスの設定】 タブ

モデルによっては、このタブは表示されません。

省電力モードで使用するとき、デバイスを有効/無効にする設定を行います。

5 複数のユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。



複数のユーザで使用する場合は

『基本をマスター 4章 Windows のユーザ設定』

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。

- ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
- ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすこと

また、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。

システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

【方法2ー (Fn) + (F4) キーを使う】

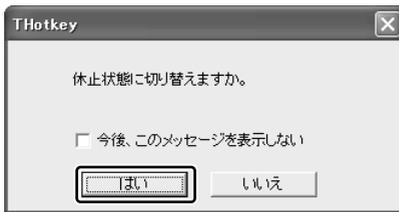
1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4)キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック (☑) して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power ⏻ LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 150
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 152
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 153

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 参照 複数のユーザで使用する場合について

『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
ConfigFree		○		○*2
東芝コントロール	○	○	○	
東芝コンソール	○		○	
Drag'n Drop CD + DVD	○		○*3	○
BeatJam		○		○*2
ekitanExpress Online	○		○	○*2
Liquid View	○		○	○
ホームページミックス /R.2	○		○	○
マイペンシル /R.2	○			○
家庭の医学	○		○	○
LaLaVoice	○*4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		○*2
MotionDV STUDIO		○		○*2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○*2
駅すばあと	○			○
筆ぐるめ		○		○*2
Norton Internet Security	○		○	○

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
東芝 PC 診断ツール		○		○ *2
東芝 HW セットアップ	○			— *5
東芝 SD メモリカードフォーマット		○		○ *6
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— *5
Fn-esse	○		○	○
くるくる壁紙チェンジャー	○		○	○
ぱらちゃん	○		○	○
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○ *2
AOL	○			○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ *2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ *2
ODN ダイヤルアップスターターキット	○		○ *7	○
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○
かるがるネット		○		

- * 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。
- * 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
- * 3 CD-R などへの書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。
- * 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
- * 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
- * 6 同時に起動することはできますが、同時にフォーマットすることはできません。
- * 7 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

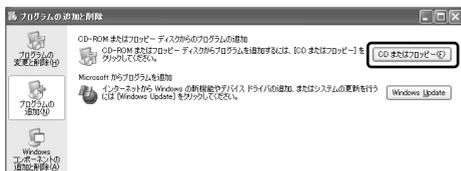
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて『困ったときは 4章 再セットアップ』

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 156
 - 2 東芝HWセットアップを使う 157
 - 3 BIOSセットアップを使う 165

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 東芝HWセットアップを使う

東芝HWセットアップを使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝HWセットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

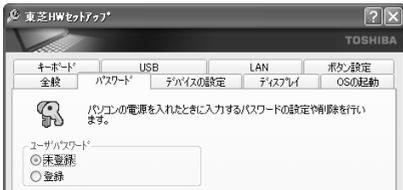
このボタンをクリックすると、「東芝HWセットアップ」の「パスワード」タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝HWセットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) [¥] キーや [ろ] キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

■ 【デバイスの設定】 タブ ■

パソコンが起動したときにBIOS セットアップが初期化する装置を指定します。



【デバイスの設定】

- 全デバイス設定
すべての装置を初期化します。
- OSによる設定（標準値）
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ 【ディスプレイ】 タブ ■

表示する装置を選択します。



【 起動時の表示装置 】

● 自動選択

システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。

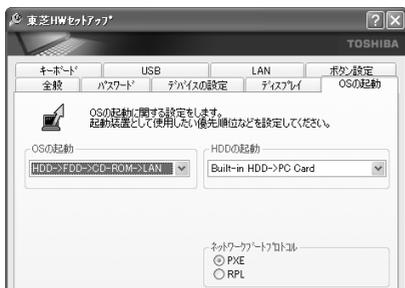
● 内部 LCD/ アナログ RGB 同時表示

外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイの両方に表示します。

▶ 参照 → CRT ディスプレイの接続 「4 章 5 CRT ディスプレイを接続する」

■ 【OS の起動】 タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【 OS の起動 】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【 HDD の起動 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

● Built-in HDD → PC Card (標準値)

パソコン本体のハードディスク→PC Card タイプのハードディスクの順で起動します。

● PC Card → Built-in HDD

PC Card タイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

【 ネットワークブートプロトコル 】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）
PXE プロトコルに設定します。
- RPL
RPL プロトコルに設定します。

■ [キーボード] タブ ■



【 キーボードによるスタンバイ復帰 】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。



【 USB キーボード／マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LANのウェイクアップ 】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【 内蔵LAN 】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

■ [ボタン設定] タブ ■

電源スイッチの機能について設定します。



【パワーボタンランプ】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ/休止状態
無効	常に消灯		
モード1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
モード2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
モード3	緑色→オレンジ色→青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯

なお、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定がモード1（標準値）に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

【サウンドロゴ】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- 有効にする (標準値)
音を鳴らします。
- 無効にする
音を鳴らしません。

ヘルプの起動方法

- 1 [東芝HW セットアップ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOSセットアップとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動

1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 ▶ パスワードについて「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」、「本節 ③-4 PASSWORD-パスワードの登録/削除をする」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X.XX

①	MEMORY Total = XXXXXXKB	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built-in HDD → PC Card Network Boot Protocol = PXE	⑥
②	SYSTEM DATE/TIME Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX	OTHERS Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled	⑦
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power		
④	PASSWORD Not Registered	Level 2 Cache = Enabled Auto Power On = Disabled Sound Logo = Enabled Power Button Lamp = Mode 1	
⑤	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Disabled TV Type*1 = NTSC		

↑↓+*: Select items **Space,BkSp** : Change values **PgDn,PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

* 1 テレビアウトモデルのみ

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X.XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	PC CARD Controller Mode = Auto-Selected	⑪
⑨	DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)	PERIPHERAL Internal Pointing Device = Enabled Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)	⑫
⑩	PCI BUS PCI BUS = IRQ11	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled	⑬
		PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑭

↑↓+*: Select items **Space,BkSp** : Change values **PgDn,PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(Space)または(BackSpace)
画面を切り替える	(Fn)+(↓)または(Fn)+(↑) 本製品では、(Fn)+(↓)が(PgDn)キー、(Fn)+(↑)が(PgUp)キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(Fn)+(←) 本製品では、(Fn)+(←)が(Home)キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

● Full Power (標準値)	● User Setting (設定例)	● Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright	LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- **LCD Brightness (LCD 輝度)**

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する

- ・ Bright 高輝度に設定する

- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

パスワードが設定されているときに表示されます。

■ パスワードの登録 ■

パスワードの設定は「東芝 HW セットアップ」で行うことを推奨します。

▶ 参照 東芝 HW セットアップでのパスワード設定
「本章 2-①-2- [パスワード] タブ」

■ キーフロッピーディスクの作成 ■

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。BIOS セットアップで作成してください。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space)または(BackSpace)キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

▶ 参照 パスワードの削除方法「本項 パスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝 HW セットアップ」の場合と同様です。

参照 ▶ 東芝 HW セットアップからのパスワード登録
「本章 2-①-2- [パスワード] タブ」

パスワードは 1 文字ごとに * が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (Enter) キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして (Y) キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに (Y) キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには (N) キーを押します。

手順 9 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

参照▶ キーフロッピーディスクの使いかた「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

- ① セットされているフロッピーディスクが2HDの場合は①キーを、2DDの場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

■ パスワードの削除 ■

「東芝 HW セットアップ」からの削除については「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、

(Space)または**(BackSpace)**キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 **(Enter)**キーを押す

パスワードが削除されます。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビーブ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

■ パスワードを忘れてしまった場合 ■

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- 2 パスワードを再設定する場合は、**(Y)**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 キーフロッピーディスクの作成」の手順2以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

パスワードを再設定しない場合は、**(N)**キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ パスワードの変更 ■

パスワードを削除してから、登録を行ってください。



パスワードの削除と登録について

「本項 パスワードの削除」、「本章 2-①-2- [パスワード] タブ」

■ パスワードの入力 ■

パスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**Enter** キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

 **参照** パスワードを忘れた場合「本項 パスワードを忘れてしまった場合」

5 DISPLAY—表示装置の設定をする

SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「LCD + AnalogRGB」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + AnalogRGB 外部 CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Disabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

【 TV Type 】

テレビアウトモデルのみ表示されます。

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (標準値) 日本と米国仕様の TV 受信機
- ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

6 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → PC Card (標準値) ... パソコン本体のハードディスク → PC Card
タイプのハードディスクの順で起動する
- ・ PC Card → Built-in HDD PC Card タイプのハードディスク → パソ
コン本体のハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。項目は次のとおりです。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

 参照 ▶ パスワードセキュリティの設定「本項-4 PASSWORD」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

- **Alarm Time**

自動的に電源を入れる時間を設定します。
・ Disabled 時間を設定しない

- **Alarm Date Option**

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
・ Disabled 月日を設定しない

- **Ring Indicator**

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できません。
・ Disabled (標準値) ... リングインジケータ機能を使用しない
・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

- **Wake-up on LAN**

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。
・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... 音を鳴らす
- ・ Disabled 音を鳴らさない

【 Power Button Lamp 】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ／休止状態
Mode 1 (標準値)	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Mode 2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
Mode 3	緑色→オレンジ色→青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Off	常に消灯		

なお、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定が Mode 1 (標準値) に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... パネルスイッチ機能を使用しない

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。



「PC CARD」について

「本項 11 PC CARD - PC カードのモードを選択する」

9 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PCカードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。内蔵されているドライブがCD-ROMドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PCカードタイプ（TYPE IIまたはⅢ）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できるPCカードのタイプ（TYPE IIまたはⅢ）のハードディスク（別売り）をPCカードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected（標準値）... プラグアンドプレイに対応したOSを使用している場合、選択します。
- ・ CardBus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しないCardBus対応のPCカードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない16-bit PCカードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

メモ

[Disabled] に設定すると、Windows 上からタッチパッドのON／OFFはできません。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

[USB-FDD Legacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、「6 BOOT PRIORITY」の [Boot Priority] が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

-
- 1 本製品の仕様 184
 - 2 技術基準適合について 191

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		dynabook C8シリーズ
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB（フラッシュROM）、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	16MB（システムメモリと共用）
表示機能	表示装置	12.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	ドライブ	マルチドライブ 1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大24倍速 CD-RW（マルチスピード） 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大10倍速 Ultra Speed CD-RW 書き換え：最大24倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 8cm、12cmのディスク対応 マルチセッション
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	4個装備 USB2.0準拠*1
	i.LINK（IEEE1394）	1個装備（S400・4ピン）*2
	PCカード	2個装備 PC Card Standard準拠 （TYPE II x 2、またはTYPE III x 1） CardBus対応

インタフェース	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ	ビデオ出力 1個装備 (RC Aピンジャック) *3
通信機能	モデム	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100-240V~ (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/4000mAh
最大消費電力		約60W
使用環境条件		温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		289 (幅) x 238 (奥行) x 35.5 (高さ) mm
質量		約2.1kg

* 1 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍 (理論値) の高速データ転送の可能なHighSpeedモードをサポートします。

ただし、すべてのUSB1.1 / 2.0対応機器の動作を保証するものではありません。

* 2 1394モデルのみ

* 3 テレビアウトモデルのみ

【 東芝 PC 診断ツール 】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

「東芝 PC 診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【 電源コードの仕様 】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。その他の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は 100V です。必ず AC100V のコンセントで使用してください。

*取得規格は、電気用品安全法です。

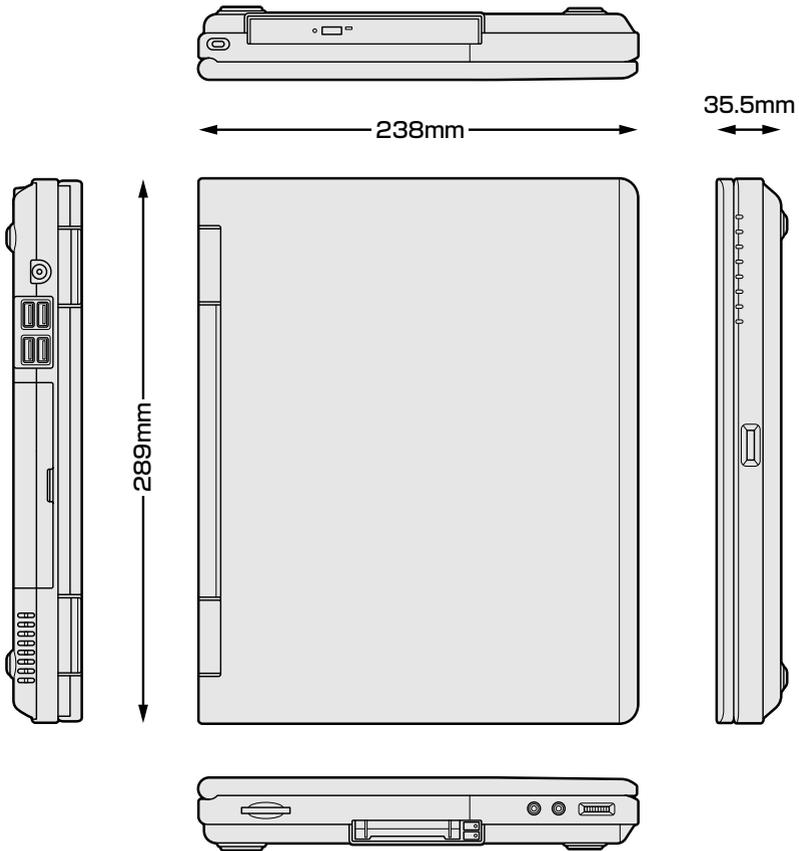
【 AC アダプタの仕様 】

入力 : AC100-240V ~、1.3A-0.7A、50-60Hz

出力 : DC15V 4A

2 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字			
0*,1*		40×25字	8×14		
2*,3*		80×25字			
0+,1+		40×25字	8(9)×16		
2+,3+		80×25字			
4.5	VGA	320×200ドット	8×8	4/256K	
6	グラフィックス	640×200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	
7+			8(9)×16		
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	
E		640×200ドット			
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10				16/256K	
11				2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	60
13		320×200ドット		8×8	256/256K

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	256/256K	60
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	64K/64K	60
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M	60/75

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

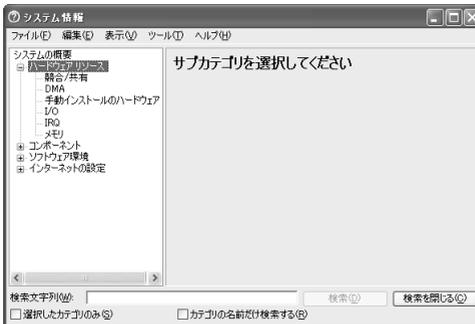
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 参照 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook C8 series

Model number : PP411

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PP411* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年6月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE
EN CAS D'OUVERTURE.

VORSICHT

EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

ADVARSEL

SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG. WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

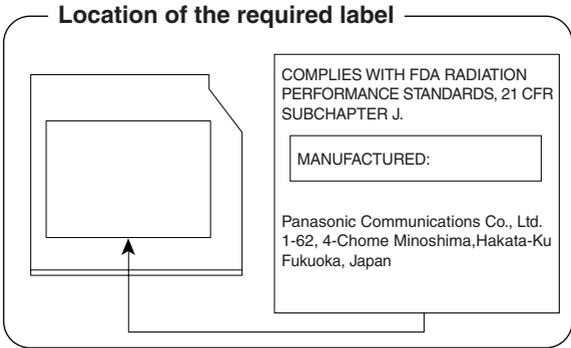
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÄR
DEKSEL ÄPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO !

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO
SÄTEESEN.



総合さくいん

(記号)	.NET Passport	『基本をマスター』 119
	 キー	『応用ガイド』 22
	 キーを使ったショートカットキー	『応用ガイド』 27
(A)	Alt キー	『応用ガイド』 22
	Arrow Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(B)	BackSpace キー	『応用ガイド』 23
	BATTERY	『応用ガイド』 169
	Battery LED	『応用ガイド』 21
	BCC	『基本をマスター』 82
	BeatJam	『応用ガイド』 58
	BIOS セットアップ	『応用ガイド』 165
	BOOT PRIORITY	『応用ガイド』 176
	Break キー	『応用ガイド』 23
(C)	Caps Lock LED	『応用ガイド』 22, 24
	Caps Lock 英数キー	『応用ガイド』 22
	CC	『基本をマスター』 82
	CD-ROM LED	『応用ガイド』 21, 44
	CD のセット	『基本をマスター』 16
	CD の取り扱い	『応用ガイド』 47
	CD の取り出し	『基本をマスター』 17
	ConfigFree	『応用ガイド』 98
	CONFIGURATION	『応用ガイド』 179
	CRT ディスプレイの接続	『応用ガイド』 118
	Ctrl キー	『応用ガイド』 22
	CyberSupport for TOSHIBA	『困ったときは』 16
(D)	DC IN LED	『応用ガイド』 21
	Del キー	『応用ガイド』 23
	Disk LED	『応用ガイド』 21, 41
	DISPLAY	『応用ガイド』 175
	DMA 使用リソース	『応用ガイド』 190
	Drag'n Drop CD + DVD	『応用ガイド』 69
	『困ったときは』 38
	DRIVES I/O	『応用ガイド』 180
	DVD のセット	『基本をマスター』 16
	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 47

	DVD の取り出し	『基本をマスター』 17
	dynabook.com	『困ったときは』 22
(E)	Enter キー	『応用ガイド』 23
	Esc キー	『応用ガイド』 22
(F)	Fn キー	『応用ガイド』 23
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 25
(H)	HTML 形式	『基本をマスター』 79
(I)	i.LINK (IEEE1394) コネクタ	『応用ガイド』 18, 119
	i.LINK 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 120
	i.LINK 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 120
	i.LINK によるネットワーク接続	『応用ガイド』 120
	IME パッド	『基本をマスター』 34
	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 190
	Ins キー	『応用ガイド』 23
	Internet Explorer	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 59
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 58
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 60
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 74
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 190
(L)	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 96
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 18, 96
	LEGACY EMULATION	『応用ガイド』 181
(M)	MEMORY	『応用ガイド』 168
	Microsoft IME スタンダードのプロパティ	『基本をマスター』 26
	Microsoft Outlook	『基本をマスター』 98
	Microsoft Outlook 画面	『基本をマスター』 99
	Microsoft Outlook の起動	『基本をマスター』 98
	Microsoft Outlook の終了	『基本をマスター』 104
	Microsoft Outlook のバックアップ	『困ったときは』 48
	MotionDV STUDIO	『応用ガイド』 83
(N)	Norton AntiVirus	『困ったときは』 35
	Norton Internet Security	『困ったときは』 34

	Numeric Mode LED	『応用ガイド』 23, 24
(O)	OTHERS	『応用ガイド』 176
	Outlook Express	『基本をマスター』 74
	Outlook Express 画面	『基本をマスター』 75
	Outlook Express の起動	『基本をマスター』 74
	Outlook Express の終了	『基本をマスター』 76
	Outlook Express のバックアップ	『困ったときは』 45
	Outlook Plus!	『基本をマスター』 105
(P)	PASSWORD	『応用ガイド』 171
	Pause キー	『応用ガイド』 23
	PC CARD	『応用ガイド』 180
	PCI BUS	『応用ガイド』 180
	PCI LAN	『応用ガイド』 182
	PC カードスロット	『応用ガイド』 16, 110
	PC カードの取り付け	『応用ガイド』 111
	PC カードの取りはずし	『応用ガイド』 111
	PERIPHERAL	『応用ガイド』 181
	Power LED	『応用ガイド』 21
	PrtSc キー	『応用ガイド』 23
(R)	RGB コネクタ	『応用ガイド』 18, 118
(S)	SD Card LED	『応用ガイド』 21, 48
	SD メモリカードスロット	『応用ガイド』 16, 48
	SD メモリカードのセット	『応用ガイド』 49
	SD メモリカードの取り扱い	『応用ガイド』 53
	SD メモリカードの取り出し	『応用ガイド』 49
	SD メモリカードのフォーマット	『応用ガイド』 51
	Shift キー	『応用ガイド』 22, 23
	Space キー	『応用ガイド』 22
	SysRq キー	『応用ガイド』 23
	SYSTEM DATE/TIME	『応用ガイド』 168
(T)	Tab キー	『応用ガイド』 22
(U)	USB コネクタ	『応用ガイド』 18, 113
	USB 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 114
	USB 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 113

(W)	Windows Media Player	『応用ガイド』 58
(ア)	宛先	『基本をマスター』 82
	アドレス	『基本をマスター』 61
	アドレス帳のバックアップ (Outlook Express)	『困ったときは』 46
	アドレス帳を使う (Outlook Express)	『基本をマスター』 94
	アプリケーションCD-ROM	『困ったときは』 89, 95
	アプリケーションキー	『応用ガイド』 23
	アプリケーションを起動する	『基本をマスター』 36
	アプリケーションを終了する	『基本をマスター』 36
	アロー状態	『応用ガイド』 24
	アンインストール	『応用ガイド』 153
(イ)	イジェクトホール	『基本をマスター』 18
	イジェクトボタン	『基本をマスター』 18
	インスタントセキュリティ機能	『応用ガイド』 25
	インストール	『応用ガイド』 152
	インターネットボタン	『応用ガイド』 54
	インターネット接続を終了する	『基本をマスター』 56
	インターネットに接続する	『基本をマスター』 55
	インターネットへの接続について	『基本をマスター』 46
(ウ)	ウィンドウ	『基本をマスター』 19
	ウィンドウズキー	『応用ガイド』 22
	ウィンドウの大きさを変える	『基本をマスター』 20
	ウィンドウを移動する	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを閉じる	『基本をマスター』 21
	ウィンドウを開く	『基本をマスター』 20
(エ)	英数字を入力する	『基本をマスター』 30
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 40
(オ)	オーバーレイキー	『応用ガイド』 23
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 24
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 65
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 63
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 44
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 66
	オプションの設定 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 101

	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 77
(カ)	カタカナ／ひらがなキー	『応用ガイド』 23
	カタカナを入力する	『基本をマスター』 28
	かな入力	『基本をマスター』 25
	漢字を入力する	『基本をマスター』 27
	漢字キー	『応用ガイド』 22
(キ)	キーボード	『応用ガイド』 16
	キーボードの取り扱い	『応用ガイド』 28
	記号を入力する	『基本をマスター』 29
	休止状態	『応用ガイド』 144
(ク)	クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 30
	クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	くるくる壁紙チェンジャー	『応用ガイド』 34
(コ)	コントロールパネル	『困ったときは』 24
	ごみ箱	『基本をマスター』 42
(サ)	再起動	『困ったときは』 27
	最小化	『基本をマスター』 22
	[最小化] ボタン	『基本をマスター』 19
	再セットアップ	『困ったときは』 88
	最大化	『基本をマスター』 22
	[最大化] ボタン	『基本をマスター』 19
	サイバーサポート	『困ったときは』 16
	サイバーサポートボタン	『応用ガイド』 54
(シ)	システムインジケータ	『応用ガイド』 16, 21
	知っておきたいマナー	『基本をマスター』 106
	受信したメールを見る (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 103
	受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	使用できる CD	『応用ガイド』 45
	使用できる DVD	『応用ガイド』 46
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 83
(ス)	数字ロック状態	『応用ガイド』 24
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10

- スクロール (マウス) 『基本をマスター』 14
- スクロールバー 『基本をマスター』 19
- スタンバイ 『応用ガイド』 144
- スピーカ 『応用ガイド』 16, 42

- (セ)** セカンドバッテリー LED 『応用ガイド』 21
- セカンドバッテリー接続コネクタ 『応用ガイド』 19
- セキュリティロック・スロット 『応用ガイド』 18, 55

- (ソ)** 操作メニュー 『基本をマスター』 19
- 増設メモリスロット 『応用ガイド』 124

- (タ)** タイトルバー 『基本をマスター』 19
- タッチパッド 『基本をマスター』 8
- 『応用ガイド』 16
- タッピング 『応用ガイド』 30
- ダブルクリック (タッチパッド) 『基本をマスター』 9
- 『応用ガイド』 30
- ダブルクリック (マウス) 『基本をマスター』 13

- (ツ)** ツールバー 『基本をマスター』 19
- 通知領域 『基本をマスター』 22
- 通風孔 『応用ガイド』 18

- (テ)** ディスクトレイ LED 『基本をマスター』 18
- ディスプレイ 『応用ガイド』 16, 33
- ディスプレイ開閉ラッチ 『応用ガイド』 16
- テキスト形式 『基本をマスター』 79
- デジカメ Walker 『応用ガイド』 80
- 電源コードの取り扱い 『応用ガイド』 20
- 電源コネクタ 『応用ガイド』 18
- 添付ファイルを開く (Outlook Express) 『基本をマスター』 88

- (ト)** 東芝 HW セットアップ 『応用ガイド』 157
- 東芝 PC 診断ツール 『困ったときは』 29
- 東芝 SD メモリカードフォーマット 『応用ガイド』 51
- 東芝省電力ユーティリティ 『応用ガイド』 138
- 時計用バッテリー 『応用ガイド』 133
- [閉じる] ボタン 『基本をマスター』 19

	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	『応用ガイド』 30
	ドラッグアンドドロップ (マウス)	『基本をマスター』 14
(ナ)	内蔵マイク	『応用ガイド』 16
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 103
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 25
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 32
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 190
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 41
	パスワードの削除	『基本をマスター』 112
	『応用ガイド』 159
	パスワードの設定	『基本をマスター』 110
	パスワードの登録	『応用ガイド』 158
	パスワードの入力	『基本をマスター』 111
	パスワードの変更	『基本をマスター』 112
	パスワードを忘れたときのために	『基本をマスター』 113
	パソコンの設定	『基本をマスター』 53
	パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 20
	バックアップ	『困ったときは』 38
	バッテリー駆動	『応用ガイド』 130
	バッテリー駆動で使用できる時間	『応用ガイド』 135
	バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 134
	バッテリーパック	『応用ガイド』 19, 130
	バッテリーパックの取りはずし／取り付け	『応用ガイド』 136
	バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 135
	バッテリー充電量の確認	『応用ガイド』 131
	パネルスイッチ機能	『応用ガイド』 147
	半／全キー	『応用ガイド』 22
(ヒ)	左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
	ビデオケーブルの取り付け	『応用ガイド』 115
	ビデオケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 117
	ビデオ出力端子	『応用ガイド』 18
	ビデオモード	『応用ガイド』 188

	表示可能色数	『応用ガイド』 33
	表示装置を切り替える	『応用ガイド』 115
	ひらがなを入力する	『基本をマスター』 27
(フ)	ファイル	『基本をマスター』 37
	ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 107
	ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 107
	ファイルのコピー	『基本をマスター』 40
	ファイルの作成	『基本をマスター』 38
	ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	ファイルを削除する	『基本をマスター』 42
	ファンクションキー	『応用ガイド』 22
	フォルダ	『基本をマスター』 37
	フォルダのコピー	『基本をマスター』 40
	フォルダの作成	『基本をマスター』 38
	フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 40
	フォルダを削除する	『基本をマスター』 42
	複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 114
	ブロードバンドについて	『基本をマスター』 47
	プロバイダと契約する	『基本をマスター』 51
	文書を保存する	『基本をマスター』 30
(ヘ)	ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 16, 122
	ヘッドホンの接続	『応用ガイド』 123
	ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME)	『基本をマスター』 35
	ヘルプの起動方法 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 105
	変換キー	『応用ガイド』 23
	変換し直す	『基本をマスター』 34
	変換の区切りを変える	『基本をマスター』 33
(ホ)	ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 69
	ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 69
	ホームページの検索	『基本をマスター』 62
	ホームページの表示	『基本をマスター』 61
	ホームページを保存する	『基本をマスター』 68
	ホイール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	ホイール (マウス)	『基本をマスター』 11
	ポインタ	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす (タッチパッド)	『基本をマスター』 9

	ポインタを動かす (マウス)	『基本をマスター』 13
	ボリュームコントロール	『応用ガイド』 42
	ボリュームダイヤル	『応用ガイド』 16, 42
(マ)	マイク入力端子	『応用ガイド』 16, 121
	マイクロホンの接続	『応用ガイド』 122
	マウス	『基本をマスター』 11
	マルチドライブ	『応用ガイド』 18, 44
(ミ)	右クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
(ム)	無変換キー	『応用ガイド』 22
(メ)	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 84
	メールボタン	『応用ガイド』 54
	メールを検索する (Outlook Express)	『基本をマスター』 97
	メールを削除する (Outlook Express)	『基本をマスター』 92
	メールを作成する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 102
	メールを作成する (Outlook Express)	『基本をマスター』 81
	メールを受信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 103
	メールを受信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 87
	メールを整理する (Outlook Express)	『基本をマスター』 93
	メールを送信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 103
	メールを送信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 85
	メールを転送する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 104
	メールを転送する (Outlook Express)	『基本をマスター』 91
	メールを返信する (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 104
	メールを返信する (Outlook Express)	『基本をマスター』 90
	メニューバー	『基本をマスター』 19
	メモ帳	『基本をマスター』 24
	メモリの取り付け	『応用ガイド』 125
	メモリの取りはずし	『応用ガイド』 127
	メモリマップ	『応用ガイド』 190
	メモリ容量の確認	『応用ガイド』 128

(モ)	文字キー	『基本をマスター』 23
	文字化け	『基本をマスター』 79
	モジュラージャック	『応用ガイド』 18
	文字を削除する	『基本をマスター』 33
	[元に戻す (縮小)] ボタン	『基本をマスター』 19
(ヤ)	矢印キー	『応用ガイド』 23
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する	『基本をマスター』 117
	ユーザアカウントを切り替える	『基本をマスター』 115
	ユーザアカウントを追加する	『基本をマスター』 114
(ヨ)	読みかたがわからない文字を入力する	『基本をマスター』 34
(ラ)	ライトプロテクトタブ	『応用ガイド』 50
(リ)	リカバリ CD-ROM	『困ったときは』 89
	リリース情報	『困ったときは』 12
	履歴	『基本をマスター』 71
(ロ)	ローマ字キー	『応用ガイド』 23
	ローマ字入力	『基本をマスター』 25
	ローマ字入力一覧表	『基本をマスター』 122
	録音レベルの調整	『応用ガイド』 43
(ワ)	ワイヤレスコミュニケーションLED	『応用ガイド』 21

